

第4章 基本施策

基本方針1 スポーツを身近に親しむことができるまち

- 市民の誰もが、身近な場所でいつでもスポーツに接することができ、スポーツを身近に感じることができるまちを目指し、「する」「観る」「支える」観点から、機会の拡充、安全を確保した環境づくりに取り組みます。

【基本方針に基づく7つの基本施策】

- (1) スポーツを「する」機会の充実
- (2) スポーツを「観る」機会の創出
- (3) スポーツを「支える」人材の育成
- (4) 身近な公共スポーツ環境の充実
- (5) スポーツ関係団体との連携・支援
- (6) スポーツ情報の提供
- (7) スポーツの安全確保

■ 成果指標

成果指標名	現状	目標値
週1回以上のスポーツ実施率 (市民アンケート)	40.6 % (2017年度)	42.5 %以上 (2021年度)
年1回以上の直接観戦率 (市民アンケート)	26.1 % (2017年度)	33.0 %以上 (2021年度)
スポーツを支える活動に 年1回以上参加した人の割合 (市民アンケート)	3.5 % (2017年度)	8.0 %以上 (2021年度)
スポーツセンター等施設利用者数 (市民文化局調べ)	259.9 万人 (2016年度)	276 万人以上 (2021年度)
「多摩川ランフェスタ in 川崎」*における ボランティアに占める障害のある方の割合 (市民文化局調べ)	5.7 % (2016年度)	6.2 %以上 (2021年度)
「多摩川ランフェスタ in 川崎」*における ボランティアに占める ボランティアリーダーの割合 (市民文化局調べ)	8.6 % (2016年度)	10.0 %以上 (2021年度)

※川崎国際多摩川マラソンと多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎

(1) スポーツを「する」機会の充実

スポーツには多種多様な種目があり、種目によって面白み、醍醐味が異なります。

一人でも多くの市民がその時々ニーズに合ったスポーツに出会い、生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、初心者向けスポーツ教室やスポーツ施設の無料開放、普段体験することができないスポーツ種目の体験会などを開催し、より多くの市民が多様なスポーツに触れる機会の充実を図ります。

また、日頃の成果を発揮する場として幅広い種目で市民スポーツ大会を開催します。

◆スポーツを始めるきっかけづくり

主な取組	概要
初心者向けスポーツ教室	各区のスポーツセンター等を中心に、初心者向けの教室やビギナープログラムを提供し、市民がスポーツに触れ、その魅力を楽しむ機会を提供します。
「体育の日」記念事業	スポーツに親しみ、健康な心身を培うため定められた「体育の日」を記念し、市民が気軽にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設の無料開放やイベント等を開催します。
市民体力テストの集い	市民が自らの体力を知り、スポーツを日常的に行うきっかけとするため、全国共通の「体力テスト」を各区において開催します。
地域における障害者スポーツの普及促進	子どもから大人まで楽しめるスポーツイベントや障害に対する意識啓発、理解促進のための講習会などを通じて、誰もがスポーツに楽しめる環境づくりに取り組みます。



市民体力テスト

昭和39年から行われてきたスポーツテストを改定し、現在は「新体力テスト」として小学生（6～11歳）、青少年（12～19歳）、成人（20～64歳）、高齢者（65～79歳）の区分で行われている全国共通の体力テストです。

自分の体力を継続的に把握し比較することができるように、握力・上体起こし・長座体前屈など、各年齢層で共通のテスト項目が設定されています。



◆多様なスポーツに触れる機会の充実

主な取組	概要
市内の貴重なスポーツ資源の活用 ・カヌー教室 ・ビーチバレー教室 ・相撲	多摩川でカヌー体験教室を開催し、カヌーの操作技術や水上事故発生時の緊急対応を学ぶとともに、多摩川の自然と親しむ機会を提供します。また、マリエンのビーチバレーコートや、富士見相撲場を活用し、関係団体と連携しながらスポーツイベント・行事を開催します。
ニュースポーツ・スポーツ・レクリエーションの普及振興	体を動かす楽しさを気軽に感じることができるよう、カローリングなどのニュースポーツの体験会や、川崎市レクリエーション連盟主催のスポーツ・レクリエーション体験会などの開催を支援します。

◆成果を発揮する機会の充実

主な取組	概要
市民体育大会	生涯スポーツの意識高揚や健康増進、体力の向上を目的として、陸上競技や球技、体操など様々な種目で広く市民が参加できるスポーツ大会を開催します。
川崎国際多摩川マラソン	多摩川の自然を身近に感じながら競技を楽しむことができ、スポーツ意識の高揚や健康増進などに寄与するマラソン大会を開催します。子どもから大人まで幅広い世代が、自分のスキルや体力に合わせて参加できるよう、ハーフマラソンの部をはじめ、初心者も参加できる10kmの部、3kmの部やファミリーファンランニングの部（1km）など、様々な種目を設定した大会とします。
多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎	走る爽快感、タスキをつなぐ楽しさなど駅伝の醍醐味を感じてもらえるよう、多摩川河川敷を活用した駅伝大会を開催します。家族や友人、会社の同僚など様々なチーム編成での参加により、駅伝競技を通じて走る楽しさやチーム内の親睦、結びつきの強まりなどを感じてもらえる、子どもから大人まで幅広い世代に親しまれる大会とします。



(2) スポーツを「観る」機会の創出

多くの人にとって、スポーツを「観る」ことは最も手軽で身近なスポーツとの関わり方です。競技レベルの高いプロスポーツ等の試合を観戦することは、その醍醐味を直接肌で感じることができ、観戦者に夢や感動を与え、スポーツへの関心や意欲を高めます。

本市には、サッカー（川崎フロンターレ）やバスケットボール（川崎ブレイブサンダース）などのプロスポーツをはじめ、バレーボールなど国内有数の競技チーム・アスリートが活動拠点を置いており、それらのハイレベルな試合が年間を通じて観戦することができます。

スポーツに対する憧れや興味を育み、スポーツへの関心を高めていくため、ホームゲームへの市民招待や関連情報の提供などを通じて、トップチームや選手のプレーを観ることができ、スポーツの魅力を肌で感じられるような取組を展開します。

主な取組	概要
「かわさきスポーツパートナー」のホームゲーム招待	川崎市をホームタウンとして活躍する「川崎ブレイブサンダース」をはじめとする「かわさきスポーツパートナー」の試合に市民を招待し、スポーツ観戦の醍醐味を直接肌で感じることができる機会を提供します。また、7月1日の市制記念日前後に開催される川崎フロンターレのホームゲームを「川崎市制記念試合」とし、市民招待を行います。
アメリカンフットボール公式戦への市民招待	川崎市を拠点として数多くの試合が行われているアメリカンフットボールの迫力を間近で体感してもらうため、国内トップリーグのXリーグ（日本社会人アメリカンフットボールリーグ）や関東大学アメリカンフットボールの公式戦に市民を招待します。
国内最高峰・全国規模の競技・スポーツ大会の開催	ビーチバレーの魅力をも市民に触れてもらうための国内最高峰のビーチバレー公式戦や、国内外のトップクラスの選手が参加するトランポリン競技大会を開催します。また、障害者スポーツの魅力を知ってもらうため、「日本アンパティサッカー選手権」をはじめ、「ブラインドサッカークラブチーム選手権」、「ジャパンデフバレーボールカップ」などの全国規模の障害者スポーツ大会の開催を支援します。



©日本アンパティサッカー協会



©JBV

(3) スポーツを「支える」人材の育成

スポーツの楽しさに気づき、自らスポーツ活動を積極的に行っていこうという思いを育てることは不可欠です。また、スポーツが地域に根つき、地域で自主的なスポーツ活動を活性化させていくためには、その活動を支える指導者やボランティアが必要です。

市民が幅広くスポーツに親しむ機会を提供するため、市民のニーズに対応した指導者の育成や資質向上に努めるとともに、スポーツ活動の企画や運営を支えるスタッフ・ボランティアの必要性や活動内容を市民に周知し、活動機会の拡充に努めます。

主な取組	概要
競技指導者等の育成支援	川崎市スポーツ協会と連携し、市内の種目別競技団体が行う指導者の育成事業を支援します。また、川崎市障害者スポーツ協会や川崎市障がい者スポーツ指導者協議会等と連携し、障害者スポーツの普及に向けた指導者の育成と資質向上を図ります。
スポーツ推進委員の資質向上	市内各地区での研修会や講習会を開催し、スポーツ推進委員の資質の向上を図ります。また、神奈川県研修会や関東研究大会、全国研究協議会等への参加を支援します。
健康づくりのためのボランティアの養成・連携	各区の特性を活かし、運動等を通して地域密着型の健康づくりに取り組み運動普及推進員等の健康づくりボランティアを養成するとともに、連携しながら体操やウォーキングなどの普及に取り組みます。
スポーツボランティア人材の育成	各種スポーツ大会が地域主体で実施できるよう、大規模スポーツ大会を通じたボランティア人材の育成等を進めます。
川崎市スポーツ賞	指導者やスタッフとしてスポーツの普及・振興に顕著な功績を残した市民に川崎市スポーツ賞を贈呈します。



スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に規定された非常勤の公務員で、地域におけるスポーツの推進役として、地域住民に対する指導・助言を行っています。

また、地域のスポーツ施策の企画立案、スポーツ活動の調整を図るコーディネーター的役割も担っています。

本市では、各区にスポーツ推進委員会を組織しており、市全体のスポーツ推進委員連絡協議会を設置しています。現在400名を超える委員が活動しており、各地区で運動会やスポーツ大会を企画・運営したり、市民向けの体力テストを実施したりしています。

(平成30(2018)年3月現在)



運動普及推進員（ヘルスパートナー）

地域住民に運動等を通じて健康づくりを普及・推進するためのボランティアです。各区保健福祉センターと協働し健康づくりを進めるため市内各地で活動しています。

(4) 身近な公共スポーツ環境の充実

誰もが気軽にスポーツに親しみ、スポーツや健康づくりを習慣にするため、身近なスポーツ環境の充実が必要となります。

市民が身近な場所でスポーツを楽しむことのできるよう、各区スポーツセンター等の既存の公共スポーツ施設や自然空間に加え、学校施設を地域に開かれたスポーツ施設として有効活用するほか、民間企業、大学等が所有する既存のスポーツ施設などについても、協定等に基づき、市民のスポーツ活動の場として確保を図ります。

既存の公共スポーツ施設については、より快適なスポーツ環境を提供するため、計画的な維持改修により施設・設備を適正に管理するとともに、施設の特徴に応じて、効果的・効率的な施設の運営と利活用を進めます。

多様なスポーツの場の創出に向けて、引き続き、既存の公共施設や河川等の自然空間の利用に加えて、パークマネジメントと連携したスポーツ施策の検討など、資産の有効活用を進めます。

◆拠点公園・緑地の再編整備

主な取組		概要
富士見公園	スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）の運営	富士見公園の整備にあわせて、スポーツ・文化・レクリエーション及びコンベンション等の多様な市民活動への対応を図るため、体育館機能として県大会や市民大会が開催できる 1,500 席程度の客席を持った大体育室や、柔道や剣道のできる武道室、弓道場（和弓・洋弓）等を備えたスポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）を整備し、平成 29 年 10 月から利用開始した施設の管理・運営を行います。
	川崎競輪場の再整備	公園との調和に配慮したうえで、既存バンクを活用し現位置でコンパクト化するとともに、できる限り多目的な利用が可能な市民に親しまれる競輪場として再整備します。 市民に競輪を身近に感じてもらえるように、トレーニングルームの利用など、競輪場施設の活用を通じて、市民の健康増進、サイクルスポーツの普及に取り組みます。
等々力緑地	公園緑地資源の有効活用	首都圏の中央に位置し、周辺には鉄道などの公共交通機関網が発達する立地や、プロスポーツを開催できる施設の機能・規模等、等々力緑地の持つポテンシャルを最大限に活かしながら、更なる魅力を発信するため、緑地内施設の維持管理業務のほか、陸上競技場第 2 期整備をはじめとする施設整備において、都市公園法の改正を踏まえつつ、指定管理者制度や P F I、公共施設等運営権事業等の手法及びその複合的活用を含め、民間活力導入に向けた検討を進めます。
	等々力陸上競技場の第 2 期整備	等々力陸上競技場第 2 期整備（サイド・バックスタンドの整備）について、各種競技を開催するための基準や要望等の課題整理、時代のニーズを見据えた公園施設としての競技場のあり方などを総合的に検証しながら、施設の安全性や機能向上に向け、整備を推進します。
	等々力硬式野球場の再整備	高校野球や社会人野球などの大会開催が可能な硬式野球場として、競技や観戦が円滑かつ安全に行えるよう、施設の機能向上に向け、整備を推進します。
	とどろきアリーナの長寿命化	市内最大の屋内スポーツ施設であるとどろきアリーナについて、中長期保全計画に基づく計画的な維持補修を行い、ライフサイクルコストを削減・平準化した施設の長寿命化を推進します。

多摩川緑地	上平間・古市場地区の施設の再整備	多摩川の多目的広場等の施設には様々なスポーツ利用における市民ニーズの変化が見られることから、利用者のニーズにあった既存施設の最適化を推進します。
生田緑地	川崎国際生田緑地ゴルフ場における指定管理者制度の活用	市内唯一の公営パブリックゴルフコースである川崎国際生田緑地ゴルフ場において、指定管理者による民間事業者の創意工夫を活かしたサービスの向上を図ります。

◆整備スケジュール

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度～
川崎競輪場	将来のコンパクト化の検討				
等々力陸上競技場第2期整備	基本計画・設計			陸上競技場第2期整備（～2024年度）	
等々力硬式野球場	野球場整備				
多摩川緑地上平間・古市場地区	施設の再整備				
川崎国際生田緑地ゴルフ場	指定管理者制度の活用				



等々力硬式野球場完成イメージ



現在の等々力陸上競技場

◆既存の施設・市有地の有効活用

主な取組	概要
公有財産の有効活用	本市の施設の適正配置や統廃合、建替や改築などにより、新たな活用が可能となった施設や市有地が生じた場合は、全市的な行政ニーズを勘案しながら、スポーツを推進する観点から活用の可能性について検討します。 また、民間を含めたスポーツ施設の数や配置状況、市民ニーズ等を把握し、既存施設を含め、行政が担うべきスポーツ施設の考え方など、今後の方向性を検討します。
麻生スポーツセンターのE S C O事業	中長期保全計画に基づく計画的な維持補修を行い、ライフサイクルコストを縮減・平準化した施設の長寿命化を推進します。
多摩川やマラソンコースなど水辺の有効活用	市民に親しまれる「ふるさとの川 多摩川」やマラソンコースを活用し、川崎国際多摩川マラソンやカヌー教室などを行います。
生田浄水場用地へのスポーツ広場等整備	生田浄水場用地の有効利用の方向性のひとつとして、スポーツ広場等の整備に向けて検討します。
多摩川サイクリングコースの延伸整備	散歩やジョギング、サイクリングなどで親しまれている多摩川サイクリングコースの多摩区布田から稲城市境までの延伸整備を行い、市民の体力向上や健康維持等を図ります。
リハビリテーション福祉センター体育館・グラウンド・プールの利用	スポーツに触れる機会を提供するため、リハビリテーション福祉センターの体育館・グラウンド・プールを障害者が利用できる施設として提供します。
等々力陸上競技場の障害者アスリートへの施設提供	障害者スポーツの普及・促進や障害者アスリートの競技力向上を図るため、等々力陸上競技場の施設提供を行います。
学校体育施設の有効活用	市民のスポーツ機会の拡充に向けて、土日・夜間など学校の活動に支障のない範囲で校庭・体育館等の学校施設を引き続き有効活用します。

◆その他施設の有効活用

企業等が所有するスポーツ施設の市民向け開放	市内企業や大学と協定を結び、所有するスポーツ施設や福利厚生施設を、その企業等の利用に支障のない範囲で市民へ開放し、市民が利用できる機会を提供します。
障害者アスリートの施設利用	障害者スポーツの普及促進や障害者アスリートの競技力向上を図るため、民間企業との協定に基づき、障害者アスリートの施設利用を促進します。

◆施設利用予約の利便性向上

ふれあいネット(公共施設利用予約システム)による予約管理	市民がふれあいネットを利用して施設の利用予約や空き状況の確認が簡単にできることによって、スポーツセンターなどの公共施設における利用予約の利便性向上を図ります。
------------------------------	---

(5) スポーツ関係団体との連携・支援

市民がスポーツをより身近に感じ、競技スポーツのほか、スポーツ・レクリエーション、障害者や高齢者などが様々なスポーツを楽しみ、積極的に推進していけるよう、公益財団法人川崎市スポーツ協会をはじめとするスポーツ関係団体と連携を深めるとともに、団体相互の連携を図り、地域のスポーツ活動や市民主体の活動を強化します。

主な取組	概要
公益財団法人 川崎市スポーツ協会との 連携・活動支援	市内の種目別競技団体を統括する川崎市スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの推進や競技力の強化、指導者や競技団体の育成を行い、川崎市におけるスポーツの普及に取り組みます。
川崎市障害者スポーツ協会、 川崎市障がい者スポーツ指導 者協議会との連携	障害のあるなしに関わらず、スポーツができる社会の実現を目指し、川崎市障害者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツの普及・推進と障害者の心身の健康増進及び社会参加の推進に取り組みます。 また、川崎市障がい者スポーツ指導者協議会と連携し、障害者スポーツの普及振興や指導者養成に取り組みます。
川崎市レクリエーション連盟 との連携・活動支援	川崎市レクリエーション連盟と連携し、スポーツ・レクリエーションの機会拡充に取り組みます。
川崎市老人クラブ連合会との 連携・活動支援	川崎市老人クラブ連合会と連携し、市内高齢者のスポーツを通じた健康づくり、生きがいづくりを支援します。
日本オリンピック委員会との 連携	東京 2020 大会を契機として、オリンピックムーブメントの推進と国際競技力向上及びスポーツ振興を目的としてパートナー都市協定を平成 27 (2015) 年 3 月に締結し、市内中学校においてオリンピックを招いて、JOC (日本オリンピック委員会) オリンピック教室を実施します。
一般社団法人 川崎ビーチスポーツクラブ との連携	川崎ビーチスポーツクラブと連携し、ビーチバレーやビーチスポーツの楽しさを体感できるスクール・大会の開催や、質の高い環境と練習カリキュラムを提供するアカデミー事業など各種活動を支援します。



(6) スポーツ情報の提供

市民が、スポーツを「する」だけでなく、「観る」、「支える」ために必要な情報を得ることができるよう、インターネットをはじめとするホームページや市政だより・情報誌等の様々な媒体を活用し、スポーツの魅力を高めるスポーツ情報の充実に取り組みます。

その際、子育て、福祉、健康づくり等の各分野と連携を図りながら、市民がいつでも、わかりやすい形で情報が入手できるよう、スポーツ情報を集約し、効率的かつ効果的にスポーツ情報の提供に取り組みます。

主な取組	概要
ホームページや広報紙の充実	市民がスポーツ情報をわかりやすく把握できるよう、各関係団体等と連携を図りながら、広報紙やかわさきイベントアプリ、ホームページ、テレビやラジオに加え、駅中のスペースを活用するなど、様々な形で、スポーツイベント・講座・施設情報を発信します。
スポーツセンターニュース	地域のスポーツ活動の拠点であるスポーツセンターの利用を促進するため、各施設の特徴や教室・講座の案内等を掲載したスポーツセンターニュースを発行します。

(7) スポーツの安全確保

私たちが日常的にスポーツに親しむためには、スポーツ活動による不慮の事故やその他スポーツによって生じる外傷等の防止及びこれらの軽減を図り、安全な環境のもとで行うことは必要不可欠です。

事故や怪我を未然に防ぎ、安全にスポーツ活動が行えるよう安全確保に向けた事業を実施します。また、事故等が発生した場合も被害を最小限に軽減できるよう、関係団体と連携し取組を展開します。

主な取組	概要
社団法人川崎市医師会、公益社団法人川崎市看護協会との連携	スポーツの安全性を向上させるため、川崎市医師会や川崎市看護協会と連携し、大会やイベント等への医師・看護師の派遣や、スポーツに関する医科学的見地からの講演等を開催します。
川崎体育救護クラブとの連携	日本赤十字の救急法講座受講者で結成された市民グループと連携し、各種スポーツ大会に救護ボランティアを派遣し、大会の安全な運営と事故防止を図ります。
運動事故防止に関する研修会	教育活動中等の運動事故を防止するため、教職員等を対象に講習会を開催します。
AEDの配備と周知啓発	公共スポーツ施設や学校体育施設にAED（自動体外式除細動器）を配備し定期点検を行うとともに、いざという時に十分対処できるよう、関係団体と連携し、AEDの利用方法に関する研修会等を開催します。

基本方針2 生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるまち

- 年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、誰もが生涯にわたって日常的にスポーツに親しみ、楽しむことができ、体力の維持向上や健やかな心身を育むことができるまちを目指します。そのために、市民の体力や年齢、興味・関心の変化などに応じ、子どもから高齢者までライフステージに対応した多様なスポーツ施策を展開します。

【基本方針に基づく5つの基本施策】

- (1) 乳幼児期の運動遊びの推進
- (2) 子どものスポーツの推進と体力向上に向けた取組
- (3) 成人のスポーツの推進と運動による健康づくり
- (4) 高齢者のスポーツの推進と運動による健康づくり
- (5) 障害者スポーツの推進

■成果指標

成果指標名	現状	目標値
体力テストの結果 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査) ※神奈川県の前年値を100とした際の本市の割合	100.0 (2016年度・小5男) 100.2 (2016年度・小5女) 93.1 (2016年度・中2男) 95.3 (2016年度・中2女)	101以上 (2021年度・小5男) 101以上 (2021年度・小5女) 100以上 (2021年度・中2男) 100以上 (2021年度・中2女)
障害者の週1回以上のスポーツ実施率 (市民文化局調べ)	27.3% (2015年度)	28.3%以上 (2020年度)
市障害者スポーツ大会 競技参加者数 (市民文化局調べ)	402人 (2016年度)	415人以上 (2021年度)
スポーツセンター等の 障害者個人利用者数 (市民文化局調べ)	22,488人 (2016年度)	23,600人以上 (2021年度)



（１）乳幼児期の運動遊びの推進

乳幼児期は、本格的にスポーツに接する前の準備段階、プレ・スポーツ期です。また、幼児期における運動の実践は、心身の発育に極めて重要であるにも関わらず、全ての乳幼児が十分に体を動かす機会に恵まれているとはいえない現状があります。この時期に大切なことは、“運動好き”を育てることであり、純粹に動くことの面白さや同年代の友達と一緒に遊ぶよろこび、親子で一緒に身体を動かしコミュニケーションをとる楽しさを学び、自ら進んで身体を動かすことを好きになることが非常に重要となります。

そのためにも、“親が自ら動き楽しむ姿を見せることがはじめの一步”との考え方のもと、親子で気軽にスポーツに親しむことができる場と機会を提供するなど、運動遊びを推進します。

主な取組	概要
保健福祉・子育て施設における運動遊び・外遊びの奨励	国が策定した「幼児期運動指針」に基づき、家庭や地域での運動とともに保育園等においても身体を動かす運動遊びに積極的に取り組みます。また、乳幼児が未就学期に通うことの多い保健福祉センター等の施設においても運動遊び・外遊びを奨励します。
幼児向けスポーツ教室	集団遊びやボール遊びなど、体を元気いっぱい動かして遊ぶ幼児向け教室をスポーツセンター等で開催します。
親子スポーツ教室	親子体操やグループゲームなど、親子のスキンシップを促進する教室を各区スポーツセンター等で開催します。

（２）子どものスポーツ推進と体力向上に向けた取組

青少年期は幼児期とともに、一生にわたる心身の礎を築く大切な時期といわれています。子どもの頃にスポーツの楽しさを味わうことで、大人になってからも「する」「観る」「支える」など何らかの形でスポーツに携わることが多くなります。また、体力面においても、学生時代に部活動などスポーツを経験した子どもたちは、大人になってからも高い体力水準を維持する傾向にあるとされています。

幼児期に培った「身体を動かすことの楽しさ」を基礎として、友達や仲間と楽しく動くことや技術の向上を目指すなど、スポーツに求めるものが多様化する重要な時期であることから、子どもがスポーツに夢中になり、生涯にわたってスポーツに親しみながら豊かなライフスタイルを実現する資質・能力を育てるとともに、学校や地域においてスポーツ機会の充実と体力の向上に取り組めます。

◆学校におけるスポーツの充実と子どもの体力向上

主な取組	概要
新体力テストの活用	子どもたち一人ひとりが自分の体力や運動能力を知り、体力や運動に対する意識を深め、日頃からスポーツに親しむきっかけとするため、新体力テストを実施します。 その結果を分析し、学校体育等の基礎資料として活用し授業内容の充実・改善を図るとともに、調査結果を家庭と共有し、子どもたちの体力・運動能力の向上に役立てます。
小学校キラキラタイム	休み時間や放課後に児童が一斉に外に出て遊ぶ機会を「キラキラタイム」として設けるなど、子どもたちが自ら進んで遊びやスポーツに親しむ機会を拡充し、体力の向上につなげます。
小学校体育活動における外部指導者等の活用	小学校の体育活動を充実させるため、学級担任と一緒にチームティーチングを行う小学校体育活動コーディネーターや水泳の授業に指導者を派遣するなど、地域のスポーツ人材を外部指導者として活用します。
小学校地区別運動会	近隣小学校の小学6年生が一斉参加する地区別運動会を市内各地で開催します。 近隣校の友達と運動を通して交流し、お互いを認め合ったり励まし合ったり、友達と協力する楽しさを味わうとともに、子どもたちが運動の楽しさや喜びを感じ、生涯にわたって積極的にスポーツに親しむきっかけとします。
フラッグフットボールの普及・交流大会	アメリカンフットボールを基に誰でも安全に楽しめるよう考案されたフラッグフットボールについて、小学校の授業で取り組むとともに、子どもたちの交流大会を開催します。
川崎市中学校総合体育大会	学校におけるスポーツの充実・発展とスポーツライフの基礎を培い、健康で心豊かな中学生の育成を目的として、市内の運動部活動の総合体育大会を開催します。
大会への複数校合同チーム参加	生徒数が減少し、1校単位でのチーム編成が困難な中学校に対し複数校での合同チーム編成を認め、運動部活動に取り組む子どもたちの大会への参加機会を確保します。
教員の指導力向上	教員向けの実技研修会や講習会を開催するほか、学習指導要領の趣旨を踏まえた指導の手引きや事例集を作成し、教員の指導力向上を図ります。



フラッグフットボール

アメリカンフットボールを基に考案された新しい球技で、タックルなど接触プレーを原則として禁止し、子どもから高齢者まで幅広い層が安全に楽しめるスポーツとして普及が進められています。

「攻撃のたびにみんなで話し合い、作戦を考え、役割分担をしながら成功体験を味わうことができる」という特徴が最大の魅力で、本市では、平成18年度から小学校を中心に取組がスタートしており、現在は市内小学校113校中95校で体育の授業に取り入れられています。

さらに、学校での授業のほか、川崎市小・中学生フラッグフットボール交流大会や中原区長杯フラッグフットボール小学生交流大会等が行われています。
(平成30(2018)年3月現在)

◆小学校と中学校、中学校と高校の連携

主な取組	概要
小学校陸上記録会	川崎市中学校総合体育大会の陸上競技大会において、小学生の陸上記録会を開催します。また、小学生が公認の陸上競技場である等々力陸上競技場で走る機会を設け、運動に積極的に親しむとともに、小学校と中学校の連携を促進します。
運動部活動 中学・高校合同講習会	運動部活動を通じて、市立中学校と高校の連携を深めるため、各種目で合同講習会を開催し、子どもたちの技術力、競技力の向上に取り組みます。

◆地域における子どものスポーツの充実

主な取組	概要
キッズスポーツ教室 ジュニアスポーツ教室	球技やダンス、器械体操など、スポーツの楽しさを体感し、体の基礎づくりにつながるような教室を開催します。
総合型クラブにおける 子ども向けスポーツ事業	総合型地域スポーツクラブなどで子ども向けのスポーツ事業を展開し、学校以外の場所においてもスポーツに触れる機会を拡充します。運動が苦手な子どもがスポーツの楽しさを味わうことができますようにします。
「子どもの泳力向上プロジェクト」水泳教室	地域のスイミングスクール等と連携して、泳ぎが苦手な児童を対象に、水泳教室を開催します。

◆学校と地域の連携

主な取組	概要
学校体育・運動部活動の充実に向けた外部の指導者の積極的活用	学校体育や運動部活動を充実させるため、総合型地域スポーツクラブなど地域の人材やトップアスリート等と連携し、指導補助者や専門指導のできる指導者を派遣します。
中学校武道必修化に応じた地域スポーツ人材の活用	中学校における武道の必修化を踏まえ、地域の人材や体育系大学の学生と連携し、安全・効果的な武道授業を行います。

◆ トップアスリート等との連携

主な取組	概要
ふれあいスポーツ教室	子どもたちにスポーツの楽しさや素晴らしさを感じてもらうため、本市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」が小学校に出向き、子どもたちと選手が直接ふれあう取組を進めます。
大規模大会サブイベント、 プレ・アフターイベント	大規模スポーツ大会の開催に併せて、中田大輔選手（かわさきトップアスリート）をはじめとするトップアスリートやコーチによる体験教室や関連イベントを開催します。 大会開催の成果を子どもたちに還元し、スポーツへの興味関心を呼び起こし、「観る」スポーツから「する」スポーツに繋がります。
JOCオリンピック教室	中学校において、オリンピックが教師役となり、自身の様々な経験を通じて「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、日常生活にも活かすことのできるものであることを、授業を通して学習することを目的に開催します。
オリンピック・パラリンピアンとの交流推進事業	中学校にオリンピック・パラリンピアンが訪問し、競技の体験会やアスリートの体験談をもとにした講演会を通じて、同大会の開催に向けた機運の醸成や、スポーツに対する興味を高める機会をつくります。

(3) 成人のスポーツの推進と運動による健康づくり

市民アンケート等からも、学校を卒業し、仕事や家事、育児が忙しくなる子育て期や働き盛り世代は、運動不足を感じている割合が高くなっています。

スポーツ実施率が低く、運動不足になりがちな子育て期・働き盛り世代やこれまでスポーツに関わってこなかった人が、継続的にスポーツを楽しむことができるよう、夜間スポーツ教室や健康づくり教室など年代・性別に応じた幅広いスポーツ事業を実施します。

主な取組	概要
夜間スポーツ教室	スポーツセンター等での夕刻・夜間の個人利用やスポーツ教室を開催し、社会人が仕事帰りにスポーツに親しめるようにします。
親子スポーツ教室	親子体操やグループゲームなど、親子のスキンシップを促進できる教室をスポーツセンター等で開催します。 また、子育て中も気軽にスポーツを楽しめるよう、スポーツセンター等での保育ボランティアの配置に努めます。
軽スポーツ・ニュースポーツ教室	仕事や家事が忙しく、スポーツから一度離れてしまった人たちも再びスポーツを始められるよう、手軽にできる負荷の軽いスポーツやニュースポーツに親しむ機会を提供します。
健康づくり教室	ストレッチやエクササイズ、ヨガなど心身コントロールのための教室や生活習慣病やメタボリック症候群などの予防・改善に役立つ運動教室を開催します。

(4) 高齢者のスポーツの推進と運動による健康づくり

本市の高齢者人口は引き続き増加が見込まれる中、いつまでも元気で明るく生き生きとした生活を送ることができるよう、生活習慣病の予防・改善や健康寿命の延伸など高齢者向けのスポーツ機会を提供するとともに、高齢者の高い健康意識に対応した健康づくり事業を展開します。

また、高齢者がスポーツや運動を通じて地域社会に参加し交流を深め、生きがいを得られるよう、保健・福祉・教育など幅広い分野と連携しながらスポーツを推進します。

主な取組	概要
シニアスポーツ教室	リフレッシュ体操やシニアスイミングなど、高齢者向けの教室を開催します。
市老人スポーツ大会	豊かなシニアライフの形成と体力の増進を目的として、高齢者向けのスポーツ大会を開催します。
グラウンドゴルフ・ゲートボールの奨励	老人クラブを中心に市内各地で普及しているグラウンドゴルフとゲートボールについて、区単位の大会やねんりんピック予選を兼ねた市民大会を開催します。
ねんりんピック（全国健康福祉祭）への派遣	高齢者のスポーツ・文化の祭典である全国健康福祉祭に選手団を派遣し、健康の増進、社会参加、生きがいづくりを推進します。
健康づくり教室	公園体操やストレッチ体操などの介護予防等の取組や、生活習慣病・メタボリック症候群などの予防・改善に役立つ運動教室を開催します。
いこい元気広場	市内の老人いこいの家を拠点として、高齢者を対象に、転ばない身体づくりのための体操や健康づくりにつながるミニ講座を行います。
介護♥予防かわさき体操	「上を向いて歩こう」と「好きですかわさき愛の街」の楽曲を用いた、介護予防のための本市オリジナル体操の普及に取り組みます。

(5) 障害者スポーツの推進

誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、障害のあるなしに関わらず、地域でスポーツを楽しみ、スポーツを通して豊かな生活を営むことが必要となります。

一人でも多くの障害者が自身の興味や関心に合わせてスポーツを楽しみ、交流し、社会参加・地域参加ができるよう、スポーツ教室や体験講座、総合スポーツ大会などを開催します。併せて、障害者が利用しやすいスポーツ環境の整備や、障害者スポーツ活動を支える指導員の育成と資質向上を図ります。

主な取組	概要
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室 ・パラスポーツやってみるキャラバン ・障害者スポーツデー 	<p>障害者のスポーツライフを支えるため、スポーツ教室や体験教室、レクリエーション教室等を開催し、障害者スポーツの普及促進を図ります。</p> <p>福祉教育の一環として、市内小中学生に障害者スポーツの魅力を伝える体験講座「パラスポーツやってみるキャラバン」を実施します。</p> <p>各区スポーツセンター等において、障害者や介助者等に障害者スポーツを楽しんでもらう「障害者スポーツデー」を開催します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市障害者スポーツ大会 ・市身体障害者球技大会 	<p>川崎市障害者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツの推進と社会参加や障害者同士の交流を目的とする市障害者スポーツ大会（水泳、陸上、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、卓球）や種目別の球技大会を開催します。</p>
<p>全国障害者スポーツ大会への選手団の派遣</p>	<p>国民体育大会の開催に合わせて同会場・同施設で毎年開催されている全国障害者スポーツ大会に川崎市選手団を派遣します。</p>
<p>障害者スポーツ指導者の育成</p>	<p>川崎市障がい者スポーツ指導者協議会等と連携し、障害者スポーツの普及に向けた指導者の育成と資質向上を図ります。</p>
<p>障害者アスリートの施設利用</p>	<p>障害者スポーツの普及促進や障害者アスリートの競技力向上を図るため、等々力陸上競技場の施設提供や、民間企業との協定に基づき、障害者アスリートの施設利用を促進します。</p>
<p>リハビリテーション福祉センター体育館・グラウンド・プールの利用</p>	<p>スポーツに触れる機会を提供するため、リハビリテーション福祉センターの体育館・グラウンド・プールを障害者が利用できる施設として提供します。</p>



基本方針3 スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流が深まるまち

○ スポーツには、お互いを知り合い交流を深めるきっかけとなるだけでなく、地域においてコミュニティを形成し、現代社会で希薄となった住民同士の関わりを生み出す効果も期待されます。こうしたスポーツの効果を活用し、スポーツを通し、地域でともに暮らす仲間とのふれあいやコミュニケーションを楽しみ、地域社会への参加のきっかけが得られ、地域での交流が深まるまちを目指します。

【基本方針に基づく3つの基本施策】

- (1) 総合型地域スポーツクラブの充実
- (2) 地域の特性を踏まえたスポーツの推進
- (3) 運動の習慣づけの促進

■ 成果指標

成果指標名	現状	目標値
総合型地域スポーツクラブの会員数 (市民文化局調べ)	4,800人 (2016年度)	5,250人以上 (2021年度)



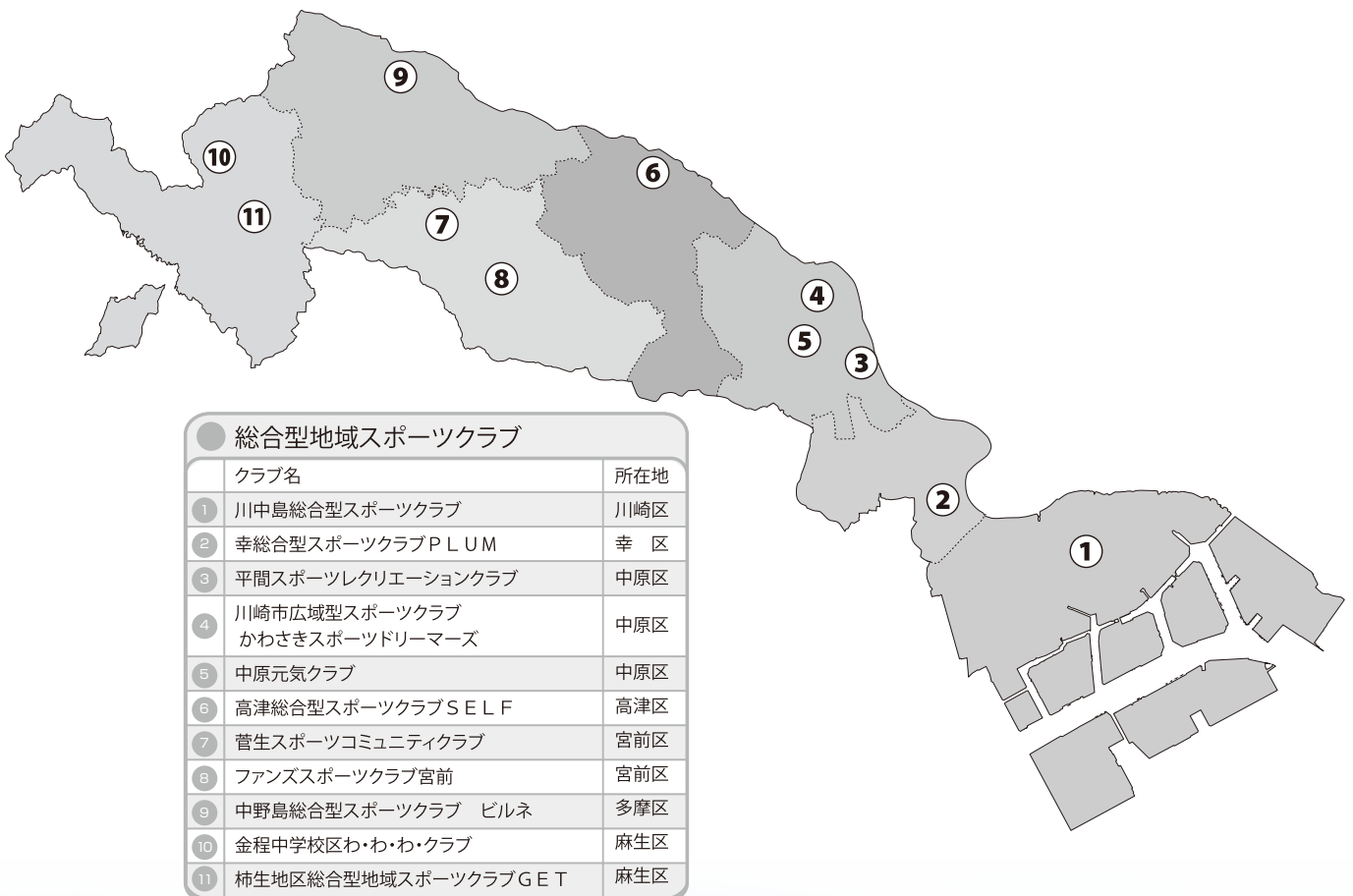
(1) 総合型地域スポーツクラブの充実

地域の特性や本市の地域資源を活用しながら「人づくり」「仲間づくり」「地域づくり」「健康づくり」を進め、多様な形でスポーツに関わることのできる総合型地域スポーツクラブは、地域スポーツの担い手として、クラブ数の量的拡大に加え、質的な充実が求められています。

引き続き、総合型地域スポーツクラブの設立支援・活動の拡大に取り組むとともに、既存クラブに対しては、連絡協議会等を開催し、情報交換や運営の助言を行うほか、クラブ間の情報共有や各クラブの認知度向上に向けた支援を行います。

主な取組	概要
設立準備会の発足、 クラブの設立支援	クラブ設立の準備段階として、地域で核となる関係団体に対して総合型クラブの概要・理念・運営方法等の指導・助言、育成アドバイザーの派遣等を行います。 また、総合型クラブの設立に向けて、広報活動や指導・助言を行います。
クラブ間のネットワークの 形成	総合型クラブの育成連絡協議会を開催し、クラブ間の情報共有や各クラブの周知活動を行います。 クラブの認知度向上に向けて、市政だよりやホームページ、広報紙で市民への情報発信を行います。

◆ 総合型地域スポーツクラブの活動状況（平成30(2018)年3月現在）



(2) 地域の特性を踏まえたスポーツの推進

都市化の進行によりコミュニティの質が変容する中においても、市民や多様な主体と行政が連携を図りながら、地域課題や多様な市民ニーズに的確に対応する必要があります。

スポーツを通じて、魅力ある地域づくりやコミュニティの形成・活性化、健康づくりへの意識の向上などを図るため、「する」「観る」「支える」など、様々な立場や役割で市民が関わることができる特色あるスポーツ事業・イベントなどを展開します。

◆各區で実施する主なスポーツ事業・イベント

	主な取組	概要
川崎区	パワフルかわさき 区民綱引き大会	かわさき市民まつりにおいて、川崎区内でともに暮らす町内会や子ども会、クラブチーム、企業など多様な主体が参加する綱引き大会を開催します。
幸区	幸区リレーカーニバル	幸区における地域主体の一大スポーツイベントとして、小学生・中学生から大人まで、区内の各地域から 1,000 名以上が参加するリレー種目限定の運動会の開催を支援します。
中原区	中原区民総ぐるみ スポーツ大会	多様な種目を体験することができるスポーツラリーとともに、幅広いチームが参加するドッジボール大会を開催し、中原区民のスポーツを通じた健康・体力の増進、仲間との親睦の輪づくりを推進します。
高津区	高津地区・橘地区 親子運動会	運動・スポーツを通して親子のコミュニケーションを促進し、近隣住民同士の親睦を深めるため、親子参加型、町内会対抗型の地区別運動会を開催します。
宮前区	みやまえスポーツ ふえすていばる	ソフトボール大会やバレーボール等の球技、ニュースポーツ、ウォーキング大会など様々な種目のスポーツ大会を年間通じて開催し、多様なスポーツに親しむ機会を提供します。
多摩区	多摩区スポーツフェスタ	誰もが安心して参加でき、気軽にスポーツに親しむ・楽しむ機会を提供し、アスリートとの交流などを通じて、区民のスポーツへの関心を高め、スポーツを通じた健康で元気のあるまちづくりを推進します。
麻生区	あさおスポーツ フェスティバル	健康と体力の向上、活力ある地域づくりを目的として、麻生区内の様々な団体と連携し、市民が自主的に行う様々なスポーツ大会を支援します。

◆多様な主体と連携した取組

主な取組		概要
川崎区	アサヒビールシルバースターとの連携	川崎区内で活動している「アサヒビールシルバースター」と連携し、選手と子どもたちがふれあう体験イベントなどを実施します。
幸区	川崎フロンターレ 幸アシストクラブ	幸区内の町内会連合会、社会福祉協議会、商店街連合会などにより構成され、区内で活動する各種団体と川崎フロンターレが互いに協力して地域イベントや大会を開催し、区民のスポーツ推進、地域の連携や活性化を図っていきます。
	富士通フロンティアーズ・法政大学オレンジとの連携	中原区内を活動拠点とする両チームとの連携を深め、アメリカンフットボール・フラッグフットボールの普及に取り組みます。
中原区	川崎フロンターレ 中原アシストクラブ	中原区内の商店街や法人、団体により構成されたアシストクラブ。今後も住民転入が続くと予想される中原区の特徴を踏まえ、区のイメージアップと新規住民と既存住民の懸け橋として川崎フロンターレを通じて、地域交流の機会拡充とコミュニティ活性化を図ります。
	高津区地域連携 スポーツ事業	NPO、企業、学校、スポーツ団体等と連携し、「親子そり体験」「ファミリースポーツ縁日」などのスポーツイベントを開催し、地域コミュニティの活性化や地域におけるスポーツの参加機会の拡充を図ります。
宮前区	フロンタウンさぎぬまとの連携	川崎フロンターレが運営するフットサル施設「フロンタウンさぎぬま」と区役所間で協定を締結し、同施設を地域資源と位置付け、スポーツ・健康づくりをはじめとした広範な分野において積極的に相互の連携・協力を進めます。
麻生区	スポーツのまち麻生推進会議	町内会や子ども会、スポーツ推進委員会など麻生区内でスポーツ事業を実施している団体と区役所間で連携し、区内のスポーツ事業の企画提案・意見交換を行います。
	川崎フロンターレ 麻生アシストクラブ	麻生区内の企業・団体が中心となり、川崎フロンターレと連携し、魅力ある「スポーツのまちづくり」を推進するとともに、スポーツを通じて豊かな人間性を育む環境づくりを進めます。

(3) 運動の習慣づけの促進

日常生活において、身体を動かし、習慣的に運動を行うことは、生活習慣病の予防や介護予防に効果があることが認められています。また、日常生活の中で意図的に身体を動かすことの積み重ねが、生活習慣病の予防につながります。

運動普及推進員等の健康づくりボランティアによる活動をはじめ、オリジナル体操の普及・活性化や、誰もが気軽に取り組めるウォーキングなどの普及啓発により、運動の習慣づけを促進します。

主な取組	概要
健康づくりのためのボランティアの養成・地域での活動支援	運動等をテーマに、家族ぐるみ、地域ぐるみで健康づくりに取り組むことができるようにボランティア活動を支援します。



体操の普及

体操グループ立ち上げ支援や体操マップ、ご当地オリジナル体操の作成を通じ、身近な住民交流と健康づくりの場として広まっている市民主体の体操の普及・活性化を支援します。

◆体操の普及

主な取組		概要
	介護♥予防かわさき体操	「上を向いて歩こう」と「好きですかわさき愛の街」の楽曲を用いた、介護予防のための本市オリジナル体操の普及に取り組みます。
川崎区	ほほえみ元気体操	健康づくり・介護予防のために作成したほほえみ元気体操を健康づくりサポーターとともに普及していきます。 椅子に座って行う体操と、立ち姿勢で行う体操の2種類があります。
幸区	地域の自主体操グループと連携した健康づくり活動の推進	町内会館等で様々なグループが実施している健康体操やストレッチ等の活動を支援し、住民主体の健康づくり活動を推進します。
中原区	なかはらパンジー体操	高齢者の健康づくりや地域交流を目的に、区の花パンジーが元気に咲く様子をモチーフに作成した区のオリジナル体操について、市民ボランティア「なかはらパンジー隊」とともに普及活動を行います。
高津区	高津公園体操	生活習慣病や転倒・骨折の予防を目的として作成した、「有酸素運動」「筋力トレーニング」「柔軟運動」という運動の3大要素を組み込んだ区のオリジナル体操の普及に取り組みます。
宮前区	・宮前区公園体操 ・宮前区ストレッチ体操～風の中で～	健康づくりと介護予防を目指し、公園等で地域住民が自主的に行う体操の取組を支援します。 また、世代を問わず、運動が苦手な人でも安心して取り組めるようヘルスパートナーみやまえ（宮前区運動普及推進員）が作成した区のオリジナルストレッチ体操の普及に取り組みます。
多摩区	・多摩区いきいき体操 ・多摩区みんなの公園体操	健康づくりと介護予防、地域のネットワークづくり・活性化を目指して作成した2つの体操について、体験イベントやボランティア養成教室を開催し、地域への普及・拡大を促進します。
麻生区	・かがやいて麻生ストレッチ体操 ・公園体操	みんなが一緒にできるような区のイメージソング「かがやいて麻生」に合わせて、あさお運動普及推進員の会が作成したストレッチ体操について、公園での定期開催や区民まつり、出張体験教室などの場で地域への普及を進めます。



ウォーキングの推進

ウォーキングは、場所・時間・年齢を問わず誰もが手軽に取り組める運動です。

まちを歩くことは、健康づくりとともに地域の魅力を発見し、まちへの愛着を形成する効果もあります。まちの魅力めぐりと健康づくりを兼ねて行われるウォーキングの普及を支援するため、ウォーキングマップの作成やウォーキングを開催します。

◆ウォーキングの推進

主な取組		概要
川崎区 幸区	川崎区ウォーキングガイドブック	区内のウォーキンググループの活動を支援するとともに、バリアフリーなどの安全面の配慮を盛り込んだ「ウォーキングガイドブック」を作成・配布します。
	ウォーキンググループの活動支援	区内のウォーキンググループと連携して、保健師等による健康教育を実施するなど、ウォーキングによる健康づくり・介護予防活動を支援します。
中原区 高津区	歩こう会	歩くことによる健康増進と体力向上につなげようと、中原区内を中心に月1回の定例ウォーキングを開催します。 楽しく歩くことに主眼を置き、誰でも自由に参加可能で友人づくりを目的に参加する人も多いウォーキングです。
	橋の散歩道ウォークラリー	地図を見ながら地域を歩き、途中でクイズやゲームをしながら子どもたちに地域の魅力を再発見してもらうウォークラリーを開催します。
宮前区 多摩区	・ディスカバーウォークみやまえ ・歩こう会	スポーツ推進委員や青少年指導員と連携し、地域発見型ウォーキング「ディスカバーウォークみやまえ」と「歩こう会」を開催します。
	多摩区ふれあいウォーキング 多摩区健康ウォーク	普段見過ごしがちな風景に目を留めながら地域を楽しく歩く「多摩区ふれあいウォーキング」を開催します。 多摩区ウォーキング推進委員会が中心となり、身近な地区でウォーキングをする場として「多摩区地区ウォーク」を開催し、区内の自然と名所を歩くウォーキングコースを紹介します。
麻生区	・歩け歩け運動 ・あさお体験ウォーク ・わくわくウォーク	区内の自然や歴史・景観に触れながらまちを歩く「歩け歩け運動」「あさお体験ウォーク」と、ゲームやクイズをしながらチームでコースを回る「わくわくウォーク」などを実施します。
	・公園ウォーキング ・あさおウォーキングマップ	地域の健康づくりを推進するため、ウォーキング普及ボランティアと連携し、区内の公園を拠点に2～3km程度のウォーキングを実施します。また、麻生区内のウォーキングコースをわかりやすく紹介したマップを発行します。

基本方針4 スポーツに挑戦する喜びがあるまち

- 各種スポーツにおける技術力向上や記録・目標の達成に向けた競技力の強化などを行い、スポーツへ挑戦し、その成果を発揮することができるまちを目指します。

【基本方針に基づく4つの基本施策】

- (1) 次世代アスリートの強化・育成
- (2) 指導力の向上
- (3) 各種スポーツ大会の開催・参加
- (4) 公共スポーツ施設の機能向上

■成果指標

成果指標名	現状	目標値
「多摩川ランフェスタ in 川崎」*の参加者数 (市民文化局調べ)	12,447人 (2016年度)	13,000人以上 (2021年度)

*川崎国際多摩川マラソンと多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎



(1) 次世代アスリートの強化・育成

本市に縁のあるアスリートが各種競技大会で活躍することにより、市民に夢や希望、感動を与え、川崎への愛着や誇り（シビックプライド）の醸成に繋がり、スポーツのまち・かわさきを広くPRすることができます。

将来を見据えた、本市からのオリンピック・パラリンピック選手の輩出の可能性を高めるための取組として、川崎市スポーツ協会と連携を図りながら、神奈川県や国の強化指定選手等への指定につなげるための、次世代アスリートの強化・育成に向けた支援を行います。

主な取組	概要
次世代アスリートの強化・育成支援	潜在能力のある次世代アスリートを発掘し、県・関東・全国レベルの競技大会で活躍できるよう、市内の種目別競技団体が行うジュニア選手の強化・育成事業に対して支援を行います。
川崎フロンターレサッカークリニック	川崎フロンターレのコーチを市内の中学校に派遣し、部活動に取り組む子どもたちを指導し、サッカーの技術力向上に取り組めます。

(2) 指導力の向上

東京2020大会に向けた市民意識の高揚により、スポーツ競技人口の増加が見込まれます。

市民スポーツを実施する上での指導者ニーズに適切に対応するため、指導者の計画的な育成や資質の向上に取り組むとともに、地域のスポーツ団体への指導者派遣を行います。

主な取組	概要
スポーツ指導者の派遣	生涯スポーツの積極的な普及・推進と指導者の確保及び資質向上を図るため、地域のスポーツ団体の要請に応じて川崎市スポーツ協会加盟団体の専門指導者を派遣します。
競技指導者等の育成支援	川崎市スポーツ協会と連携し、市内の種目別競技団体が行う指導者の育成を支援します。また、川崎市障がい者スポーツ指導者協議会等と連携し、障害者スポーツの普及に向けた指導者の育成と資質向上を図ります。

(3) 各種スポーツ大会の開催・参加

障害のあるなしに関わらず、日頃のトレーニングや努力の成果を発揮し、競い合い、目標を達成する喜びを感じる機会として、競技大会を開催するとともに大規模なスポーツ大会への参加を支援・奨励します。

主な取組	概要
市民体育大会	市民の生涯スポーツの意識高揚や健康増進、体力の向上を目的として、様々な種目で広く市民が参加できるスポーツ大会を開催します。
市障害者スポーツ大会の開催 全国障害者スポーツ大会への 選手団の派遣	障害者スポーツの推進と社会参加を目的として、市障害者スポーツ大会（陸上、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング）を「全国障害者スポーツ大会」の本市代表の選考も兼ねて開催します。また、国民体育大会とともに行われる全国障害者スポーツ大会に川崎市選手団（個人競技選手及び役員）を派遣します。
市町村かながわ駅伝への参加	本市の代表選手を選抜し、秦野市～相模湖を舞台に行われる神奈川県内の市町村対抗の駅伝大会に参加します。
川崎国際多摩川マラソン	多摩川の河川敷を活用し、本市を代表するスポーツイベントであるランニングフェスティバルを開催します。数千人が参加する大規模大会であり、自己の目標へ挑むことや他のランナーとの競い合いによる競技の醍醐味を味わうことができます。
多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎	子どもから大人まで幅広い世代が参加し、国内最大級の大会として親しまれる駅伝大会を開催します。 1,000 を超えるチームが参加する大規模大会であり、自分達で立てたチーム目標へ挑むことや他のチームとの競い合いによる競技の醍醐味を味わうことができます。
国際大会・国民体育大会や、中 学生・高校生の大規模大会への 出場奨励	国際大会（オリンピック・パラリンピック、アジア大会等）や国民体育大会に出場する市内に住所を有する選手に奨励金を交付します。また、関東大会・全国大会等に出場する市立中学校・高校の生徒に参加奨励費と派遣費を支給します。
川崎市スポーツ賞	スポーツで顕著な活躍をした個人や団体を対象に、川崎市スポーツ賞を贈呈します。



(4) 公共スポーツ施設の機能向上

競技力の向上をハード面から支えるとともに、市民が日頃から継続的に技術力・競技力を高めることができる環境を確保するため、公共スポーツ施設の改修・再編を行い、機能向上を図ります。

主な取組	概要
川崎マリエン JOC認定バレーボール競技 強化センター	ビーチバレースクールや各種大会の開催を支援するとともに、競技施設・トレーニング設備を備えたJOC認定バレーボール強化センターとして認定を受けた川崎マリエンを活用し、日本代表候補の選手強化を支援します。
スポーツ・文化総合センター (カルッツかわさき)の運営	富士見公園の整備にあわせて、スポーツ・文化・レクリエーション及びコンベンション等の多様な市民活動への対応を図るため、体育館機能として県大会や市民大会が開催できる1,500席程度の客席を持った大体育室や、柔道や剣道のできる武道室、弓道場(和弓・洋弓)や大会開催時の練習に利用できる小体育室を備えたスポーツ・文化総合センター(カルッツかわさき)を整備し、平成29年10月から利用開始した施設の管理・運営を行います。
等々力陸上競技場の 第2期整備	等々力陸上競技場第2期整備(サイド・バックスタンドの整備)について、各種競技を開催するための基準や要望等の課題整理、時代のニーズを見据えた公園施設としての競技場のあり方などを総合的に検証しながら、施設の安全性や機能向上に向け、整備を推進します。
等々力硬式野球場の再整備	高校野球や社会人野球などの大会開催が可能な硬式野球場として、競技や観戦が円滑かつ安全に行えるよう、施設の機能向上に向け、整備を推進します。



基本方針5 スポーツを通して川崎の魅力・活力が感じられるまち

- 川崎で活躍するトップチーム・トップアスリートと連携を図るなど、地域活動や地域の活力を高める取組を推進し、スポーツを通して、誰もが川崎の魅力・活力が感じられるまちを目指します。

【基本方針に基づく4つの基本施策】

- (1) ホームタウンスポーツの推進
- (2) スポーツを通じた本市の魅力発信
- (3) スポーツによる地域経済の活性化
- (4) アメリカンフットボールを活かしたまちづくり

■成果指標

成果指標名	現状	目標値
かわさきスポーツパートナーによるホームゲーム市民招待の申込者数 (市民文化局調べ)	3,144人 (2012～2016シーズンの平均)	3,301人以上 (2018～2021シーズンの平均)



(1) ホームタウンスポーツの推進

スポーツが盛んで、活気あふれるまちを目指して、本市は、これまで6団体を「かわさきスポーツパートナー」として認定し、ホームタウンスポーツのシンボルとして、市民のまちへの愛着と誇り、連帯感を育むなど、市民との交流・ふれあい事業を中心としたスポーツ活動を推進してきました。

本市をホームタウンとするトップチームと協働・連携しながら、「地域コミュニティの醸成」、「生涯スポーツの推進」、「青少年の健全育成」、「都市イメージの向上」、「スポーツを支える環境整備の推進」、「地域経済の活性化」等を一層進めるため、今後も引き続き、クラブや後援会などへの多角的な支援を行い、ホームタウンスポーツの振興を図ります。

主な取組	概要
ふれあいスポーツ教室	子どもたちにスポーツの楽しさや素晴らしさを感じてもらうため、本市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」が小学校に出向き、子どもたちと選手が直接ふれあう取組を進めます。
「かわさきスポーツパートナー」のホームゲーム招待や交流イベント実施	本市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」の試合に市民を招待し、スポーツ観戦の醍醐味を直接肌で感じることでできる機会を提供します。 また、「かわさきスポーツパートナー」間で協力し、種目の枠を超えた連携や一堂に会する市民との交流イベントなどを実施し、地域に根差した活動を行います。
市内を拠点に活動するアスリートとの連携	本市をホームタウンとして活躍する「かわさきスポーツパートナー」のほか、様々な種目で市内各地区を拠点に活躍しているアスリートとの連携を進めます。

◆川崎フロンターレとの連携・協働

主な取組		概要
川崎フロンターレが行う地域密着活動の支援		川崎フロンターレが市内で行っているスポーツ活動やスポーツ以外の分野での地域活動を支援し、「地域コミュニティの醸成」、「生涯スポーツの推進」、「青少年の健全育成」、「都市イメージの向上」、「スポーツを支える環境整備の推進」、「地域経済の活性化」等の取組を推進します。
川崎フロンターレ後援会の活動支援 川崎フロンターレ連携・魅力づくり事業実行委員会		チームが市民のシンボルとなり、市民のまちへの愛着と誇り、連帯感が育まれるよう、川崎フロンターレ後援会や川崎フロンターレ連携・魅力づくり実行委員会を通じて同クラブへの多角的な支援を行います。
イベント広場 「フロンパーク」の開催支援		等々力陸上競技場での川崎フロンターレのホームゲーム時に開設されるイベント広場「フロンパーク」の開催を支援します。 市内産物・名産品の物販・名所のPRブースなどの開設や、本市にちなんだイベントの開催など、等々力陸上競技場を訪れる市民はもとより、アウェイチームサポーターに対しても本市の魅力を感じられる機会を提供します。
幸区	川崎フロンターレ 幸アシストクラブ	幸区内の町内会連合会、社会福祉協議会、商店街連合会などにより構成され、区内で活動する各種団体と川崎フロンターレが互いに協力して地域イベントや大会を開催し、区民のスポーツ推進、地域の連携や活性化を図っていきます。
中原区	川崎フロンターレ 中原アシストクラブ	中原区内の商店街や法人、団体により構成されたアシストクラブ。今後も住民転入が続くと予想される中原区の特徴を踏まえ、区のイメージアップと新規住民と既存住民の懸け橋として川崎フロンターレと連携しながら、地域交流の機会拡充とコミュニティ活性化を図ります。
宮前区	フロンタウンさぎぬまとの連携	川崎フロンターレが運営するフットサル施設「フロンタウンさぎぬま」と区役所間で協定を締結し、同施設を地域資源と位置付け、スポーツ・健康づくりをはじめ広範な分野において積極的に相互の連携・協力を進めます。
麻生区	川崎フロンターレ 麻生アシストクラブ	麻生区内の企業・団体が中心となり、川崎フロンターレと連携し、魅力ある「スポーツのまちづくり」を推進するとともに、スポーツを通じて豊かな人間性を育む環境づくりを進めます。



川崎フロンターレ連携・魅力づくり事業実行委員会

地域の魅力づくりを行い、スポーツを通じて市民のまちへの愛着と誇り、連帯感を育むため、市民クラブである川崎フロンターレと連携したイベント等を企画・実施する委員会です。

川崎フロンターレ後援会や川崎市サッカー協会のほか、商工会議所や青年会議所、商店街連合会、老人クラブ連合会、町内会連合会など市内の関係団体が参加しています。

◆川崎ブレイブサンダースとの連携・協働

主な取組		概要
川崎ブレイブサンダースが行う地域密着活動の支援		川崎ブレイブサンダースが市内で行っているスポーツ活動やスポーツ以外の分野での地域活動を支援し、「地域コミュニティの醸成」、「生涯スポーツの推進」、「青少年の健全育成」、「都市イメージの向上」、「スポーツを支える環境整備の推進」、「地域経済の活性化」等の取組を推進します。

(2) スポーツを通じた本市の魅力発信

スポーツには、地域の一体感や市民の活力の醸成など、様々な効果があるとされています。「かわさきスポーツパートナー」をはじめとするスポーツチームやアスリートの持つ情報発信力・PR力は特筆すべきものがあり、産業・文化・芸術と並びスポーツが、都市としての更なる魅力の向上や、市民としてのアイデンティティの形成、川崎への愛着・誇り（シビックプライド）の醸成に大きく寄与すると考えられます。

ホームタウンスポーツの推進や東京 2020 大会を契機とする若者文化の発信など、スポーツに関連する様々な取組と連携を図りながら、自ら暮らすまちへの愛着と誇りの次世代への継承や、観光・教育などの各分野の施策・事業の効果を高め、活力にあふれた魅力あるまちづくりを進めます。

主な取組	概要
英国代表チームの事前キャンプ受け入れ	「ホストタウン構想」を活用し、英国とスポーツ、文化、教育、産業など幅広い分野での交流事業を実施します。
国内外との都市間交流	スポーツを通して、文化・伝統の異なる国や地域との交流を図り、心身の健全な成長に資することを目的として、本市と国内外の自治体との間で都市間交流事業を実施します。
ポスターなど各種啓発事業への協力	トップチーム・トップアスリートの知名度を活かし、献血や薬物乱用防止といった各種啓発ポスターへの登用などを行い、市民への周知・啓発活動を推進します。
市民文化大使	スポーツで活躍する選手等を文化芸術分野の人たちとともに市民文化大使に選任し、他都市との交流事業や市内の文化事業等に参加いただき、本市のイメージアップを図ります。
読書のまち・かわさき事業	川崎フロンターレと連携し、選手おすすめ本リストの配布や、選手等による絵本の読み聞かせなどを行い、本の魅力・読書の楽しさを広げ、子どもの豊かな心を育むための読書推進活動を行います。
カーボンチャレンジ等々力	川崎フロンターレ、富士通川崎工場、川崎市公園緑地協会、川崎市の4者で連携し、川崎フロンターレのホームゲームにおけるリユース食器の活用や環境啓発イベントの実施など地球温暖化対策に取り組みます。



(3) スポーツによる地域経済の活性化

スポーツの社会的役割の増大やスポーツへの意識の高まりとともに産業規模が拡大し、スポーツ関連産業は、成長産業として大きな経済効果が期待されています。

市民に親しまれる「ふるさとの川 多摩川」などの自然や環境等の資源とスポーツを融合したスポーツツーリズムの推進やイベントの開催、地元産業・商店街などがタイアップした事業を展開し、スポーツによる地域経済の活性化を図ります。

併せて、国や神奈川県、種目別競技団体等と連携し、国際的・全国的な競技大会の誘致に努めます。

主な取組	概要
スポーツと連携した観光振興	国内外におけるスポーツツーリズムの高まりなどの動向を踏まえ、自転車で市内各地の名所を巡る「かわさきライドサーカス」などの体験型イベントや、「かわさきスポーツパートナー」と連携した取組など、川崎の魅力を広く知ってもらい、本市の魅力を高めるまちづくりを進めます。
国際的・全国的スポーツ大会の開催	「全日本アルティメット選手権大会」や「大学ラグロス大会」など全国的なスポーツ大会の開催により、世界最高・国内トップレベルの競技に接し、直接観戦する機会を提供するとともに、スポーツに対する興味関心を引き起こし市内外の交流人口の拡大などを通じて、地域経済の活性化を図ります。
イベント広場 「フロンパーク」の開催支援	等々力陸上競技場での川崎フロンターレのホームゲーム時に開設されるイベント広場「フロンパーク」の開催を支援します。 市内産物・名産品の物販・名所のPRブースなどの開設や、本市にちなんだイベントの開催など、等々力陸上競技場を訪れる市民はもとより、アウェイチームサポーターに対しても本市の魅力を感じられる機会を提供します。
B u yかわさきキャンペーンとの連携	「B u yかわさきキャンペーン」と連携し、川崎フロンターレのホームゲームや大規模スポーツ大会などにおいて名産品を購入できる店舗を出店し、市内の優れた産物を市内外に広く紹介し、市内での消費拡大に取り組みます。
浴場組合連合会との連携	大勢の参加者が集まるマラソンや駅伝等の大規模スポーツ大会の開催時に浴場組合連合会と連携し銭湯マップを作成し、参加者へのサービス向上と浴場の利用促進を図ります。

(4) アメリカンフットボールを活かしたまちづくり

本市は、アメリカンフットボール社会人Xリーグや学生リーグの公式戦がかねてより川崎球場で数多く開催されていたほか、複数の国内トップチームの練習拠点が市内にあるなど、もともとアメリカンフットボールが活発でなじみの深い土地柄です。

平成19(2007)年にアジアで初めてとなるアメリカンフットボールワールドカップ大会が川崎で開催されたことを契機に、同年11月には、日本アメリカンフットボール協会と、アメリカンフットボールを今後のまちづくりにより活用していくための包括協定を締結しました。

こうした経緯や地域資源を踏まえ、多様な媒体・メディアを活用しながらアメリカンフットボールの魅力を広く市内外に発信しイメージアップを図るとともに、競技関係者と商店街が広報・PR・イベント等で連携し、競技の魅力の発信や地域経済の活性化につなげる取組を推進していきます。

併せて、教育的効果の高さが注目されているフラッグフットボールを市内学校教育の中に定着させ、子どもたちの健全育成につなげていきます。

主な取組		概要
富士通スタジアム川崎 (川崎富士見球場) を活用した取組		アメリカンフットボールの聖地(活動拠点)となっている富士通スタジアム川崎(川崎富士見球場)は、4,000席程度の常設観客席を整備するなど、競技者と観客の双方が利用しやすい施設となっています。日本アメリカンフットボール協会等の関係事業者と連携を図りながら、同スタジアムを活用し、「川崎アメフト屋台村」などの魅力発信イベントを開催しアメリカンフットボールを活用したまちづくりを進めます。
アメリカンフットボール 公式戦への市民招待		本市を拠点として数多くの試合が行われているアメリカンフットボールの迫力を間近で体感してもらうため、国内トップリーグであるXリーグ(日本社会人アメリカンフットボールリーグ)や関東大学アメリカンフットボールの公式戦に市民を招待します。
フラッグフットボールの 普及・交流大会		アメリカンフットボールをもとに、誰でも安全に楽しめるよう考案されたフラッグフットボールについて、小学校の授業で取り組むとともに、子どもたちの交流大会を開催します。
アメリカンフットボールを 活用した商店街振興		川崎駅周辺の商店街での飲食割引やサービス特典を掲載した広報物の作成など、川崎球場で数多く開催されるアメリカンフットボールの試合をまちの賑わい・商店街振興につなげるための取組を進めます。
川崎区	アサヒビールシルバースターとの連携	川崎区内で活動している「アサヒビールシルバースター」と連携し、選手と子どもたちがふれあう体験イベントなどを実施します。
中原区	富士通フロンティアーズ・法政大学オレンジとの連携	中原区内を活動拠点とする両チームとの連携を深め、アメリカンフットボール・フラッグフットボールの普及に取り組みます。

